

船の科学館 NEWS RELEASE

報道関係各位

財団法人 日本海事科学振興財団
船の科学館 学芸部 企画広報課**お知らせ****船の科学館 本館展示の休止について**

東京お台場にある「船の科学館」は、1974年（昭和49年）7月20日「海の記念日」に開館いたしました。以来、37年間にわたり延べ1,800万人を超える来館者を迎え、海と船の文化を伝える海洋総合博物館として皆様に親しまれてまいりました。

しかし、6万トン級の大型客船を模したユニークな本館は、施設及び展示共に老朽化が著しく、これを機に、次世代の海洋教育拠点へのリニューアル準備のため2011年9月30日（金）をもって、ひとまず本館展示を休止することといたしました。

本館建物は、引き続き事務所及び収蔵保管・研究施設として活用し、展示は前面水域で保存・公開している南極観測船“宗谷”を中心に、屋外展示の公開を行うと共にプール水面を活用した各種体験教室も実施して、博物館活動を継続していくことといたしました。

なお、前面水域に係留している青函連絡船“羊蹄丸”につきましては、本館展示の休止に伴い保存・展示を終了することといたしました。

**船の科学館 “本館” 及び “羊蹄丸” の展示最終日
2011年 9月30日（金）**

本館展示の休止にあたり、これまでのご来館ご利用に感謝し、多彩な「記念イベント」等を開催する予定です。本件に係る告知をどうぞ宜しくお願いいたします。

【添付資料】

1. 船の科学館のご紹介
2. 本館展示の休止に伴う、企画展及び「記念イベント」予告（予定）
3. 今後、船の科学館「最新情報」等の直接配信をご希望される場合の登録について（報道関係者）

※ 上記添付資料の他、最新のトピックスや詳細は、船の科学館ホームページで順次ご案内させていただきます。

〈 お 問 合 せ 先 〉

財団法人 日本海事科学振興財団 船の科学館 学芸部 企画広報課

〒135-8587 品川区東八潮3番1号 TEL 03-5500-1116（企画広報課）FAX 03-5500-1190
TEL 03-5500-1111（船の科学館 代表）
URL <http://www.funenokagakukan.or.jp>

1. 船の科学館のご紹介



財団法人 日本海事科学振興財団（理事長：森田文憲）が運営する“船の科学館”は、ポートルースの公益資金により、故 笹川良一 日本船舶振興会（現：日本財団）会長を初代館長として、1974年7月20日「海の記念日」に開館した海と船の文化をテーマとする海洋総合博物館です。これまでの37年間、延べ1,800万人を上回る来館者を迎え海事知識の普及啓発に貢献し、皆様に親しまれてまいりました。

しかし、6万トン級の豪華客船を模したユニークな本館は施設及び展示の老朽化は著しく、これを機に次世代の海洋教育拠点へのリニューアル準備のため、2011年9月30日（金）をもって、ひとまず本館展示を休止することといたしました。



船の科学館 本館1階シンボルホールの展示



船の科学館 本館1階展示場の様子

＜お問合せ＞

135-8587 東京都品川区東八潮3番1号 (財) 日本海事科学振興財団「船の科学館」
学芸部企画広報課 03-5500-1116 ホームページ <http://www.funenokagakukan.or.jp>

2. 南極観測船“宗谷”、青函連絡船“羊蹄丸”のご紹介



＜“宗谷”の要目＞

大きさ：2,736 総トン
全長：83.7メートル
乗組員数：94名
観測隊員数：36名
(第4次南極観測時)

＜南極観測船“宗谷”＞

わが国初の南極観測船として知られる“宗谷”は、1938年旧ソ連の耐氷貨物船として進水しましたが、事情により貨物船“地領丸”として竣工し、その後、日本海軍の特務艦、戦後は引揚げ船／灯台補給船として任務を果しました。1956年、砕氷船に大改造され南極観測船として6回往復し、南極観測事業を成功に導きました。最後は北海道の巡視船となり、実に40年に亘って現役で活躍、「奇跡の船」と呼ばれましたが1978年10月に解役、1979年5月より船の科学館で一般公開を開始したものです。



＜“羊蹄丸”の要目＞

大きさ：8,311 総トン
全長：132.0メートル
車両積載数：48両
旅客定員：1,200名

＜青函連絡船“羊蹄丸”＞

“羊蹄丸”は、1965年に青森と函館を結ぶ鉄道連絡船として建造、1988年3月の青函トンネル開通に伴って引退するまでの22年7カ月の間、本州と北海道を結ぶ大動脈として活躍しました。引退後は当財団の所有となり、1992年にイタリア・ジェノバ市で行われた「国際船と海の博覧会」では日本政府のパビリオンとして活用、その後改装されて1996年3月より船の科学館での一般公開を開始したものです。

この度、本館展示の休止に伴い保存・展示を終了することといたしました。

【添付資料】

3. 本館展示の休止に伴う、「企画展」及び「記念イベント」予告（予定）

1) 企画展「日本の海^{にっぽん うみ} ～まもるべき島々～」の開催

海洋国家日本の「国境の島々」に焦点を当てて開催します。船の科学館ならではの切り口で、日本の国土や海洋権益が及ぶ範囲の歴史と現状を紹介します。

期 間：2011年8月1日（月）～9月30日（金）

場 所：1階オーロラホール

2) 「進水100周年 豪華客船タイタニック号展」の開催

1911年に現・北アイルランドのベルファストで進水したタイタニック号。本展では進水100年を記念し、日本初公開の設計図を含む貴重な資料や備品を通して、海に浮かぶ宮殿と称された豪華客船タイタニック号の在りし日の姿を追います。

期 間：2011年8月1日（月）～9月30日（金）

場 所：3階展示場（特設会場）

3) 「夏休み！海と船の工作ひろば この夏 船の科学館でアートに挑戦！」の開催

毎年、皆様に親しまれてきた「夏休み！海と船の工作ひろば」もファイナルとなります。この機会に、親子皆で楽しめる海と船の工作ひろばに是非ご参加ください。

期 間：2011年8月1日（月）～8月31日（水）

場 所：3階マリタイムサルーン

※ 参加無料。但し、材料代等の実費をご負担いただく工作があります。

※上記「記念イベント」の詳細については、今後、船の科学館ホームページで順次ご案内させていただきます。

＜お問合せ＞

135-8587 東京都品川区東八潮3番1号 （財）日本海事科学振興財団「船の科学館」
学芸部企画広報課 03-5500-1116 ホームページ <http://www.funenokagakukan.or.jp>

**4. 今後、船の科学館「最新情報」等の直接配信をご希望される場合のご登録について
(報道関係者)**

今後、船の科学館からの「最新情報」等を直接配信ご希望される場合は、本紙に必要な事項をご記入のうえ、船の科学館 学芸部 企画広報課まで「**FAX**」にてご返信ください。

ご返信先：船の科学館 学芸部 企画広報課 宛

FAX 番号 03-5500-1190

船の科学館「最新情報」等の直接配信を希望しますので、下記担当まで手配願います。

貴社名

支店、支社、部署名

ご担当者氏名
フリガナ
おなまえ

連絡先		
住所		
〒	—	—
TEL / FAX		
TEL	—	—
FAX	—	—

メールアドレス